

金ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

2023/04/03号

一般社団法人日本貴金属マーケット協会 池水雄一



【ゴールドマーケットの現状】

円建てゴールド市場最高値更新8497円へ

SPDR Gold Shares円建価格



ゴールドとドルインデックス



前週もまた円建てゴールドの歴史的な高値が更新されました。新しい高値は期末の3月31日につけた8497円とまさに8500円目前まで上昇、その後は利食い売りで円高におされて、終値は8400円となりました。ドル建てゴールドも3月は150ドル上昇となり、2020年7月以来の大きな上昇月となりました。引き金となったのはSVB破綻から始まった銀行不安であり、それがマーケットのFRBの金融政策の先行きへの見方を一変させたと言えます。その直前まではhigher and longerという議長の言葉が示すように断固とした金利上げの想定が一転、今年中に金利下げの可能性も取りざたされるようになりました。米国の地銀レベルの銀行ではその資産価値が大きく目減り、預金が大量に流出、MMFや大銀行へと資金が流れ、FRBの介入がなければ地銀破綻の連鎖は避けられなかったという金融不安となったのです。ゴールドが安全資産として買いの対象となったのは当然です。この銀行不安は財務省とFRBの迅速な対応により、とりあえずの火消しには成功しているように見えますが、火種はまだ多く残っています。保険会社や影の銀行の危機といった言葉が散見されているのはその証左。FRBはまだ金利下げのサインは出していませんが、マーケットはこの銀行不安と下がりつつあるインフレ率を背景に、金利上げ打ち止め、それに続く金利下げをもはや折り込み始めていると言っていいでしょう。これは当然、ゴールドにとっては強材料です。そして、何よりももっとファンダメンタルズに関係するのは、非西側諸国による「脱ドル (De-Dollarization)」の動きです。サウジが上海協力機構に参加を閣議承認と人民元建てでの原油取引、中国とブラジルが脱ドル取引で合意、フランスが上海の取引所でLNGを人民元建てで購入、BRICS諸国の新しい通貨組成の動き、インドが米ドルに換えてインドルピーでの国際取引などなど、脱ドル化のニュースが目白押しです。ゴールドにはこれらの資金がどんどん流れ込んでおり、この流れはこれから加速していくでしょう。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項 (ディスクレーム) をお読み下さい。

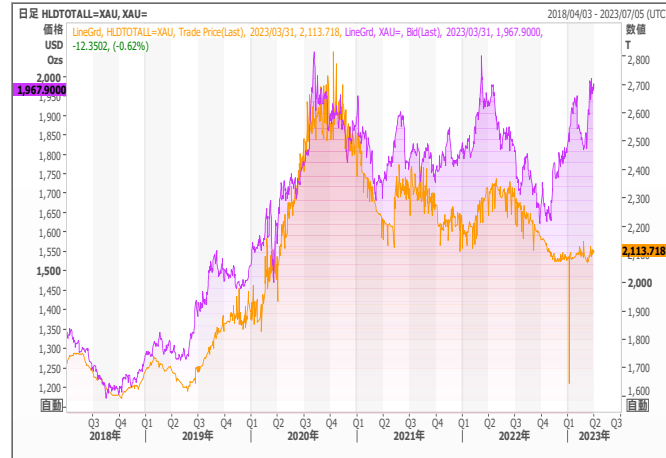
金ETF証拠金取引|WEEKLY REPORT

【マーケット・トピック】

「円建てゴールドの歴史」

1971年、変動相場は円建てゴールドでいうと1グラム200円から始まりました。私が商社に入社し、貴金属の取引を始めた1980年代半ばの円建てゴールドは1グラム1000円。その頃はゴールドは基本的には右肩下がりの相場が続き、とりあえずショートをしていれば儲かるという相場でした。私が覚えている安値は700円台がありました。その流れが変わったのは1989年でした。CBGA（Central Bank Gold Agreement中央銀行ゴールド合意）が形成され、この発表によってゴールドは820円から1930円まで急騰、ほぼ二倍になりました。しかしその後の10年間は1991年のソ連崩壊からの国際緊張の緩和から、ゴールドはまた右肩下がりとなり10年かけてふたたび900円台までゴールドは下落しました。しかし2000年からは右肩上がりとなり、2004年のゴールドETFの誕生、2008年からのリーマンショック、2020年からのコロナショックという契機ごとにマーケットの上昇に弾みがつきました。そして今、過去50年余の最高値となり、200円だったものが8490円まで上昇、なんとその価値は42倍に膨らんだのです。世界の多極化への動き、ドル離れによりこの流れは今後もまだまだ続きそうです。

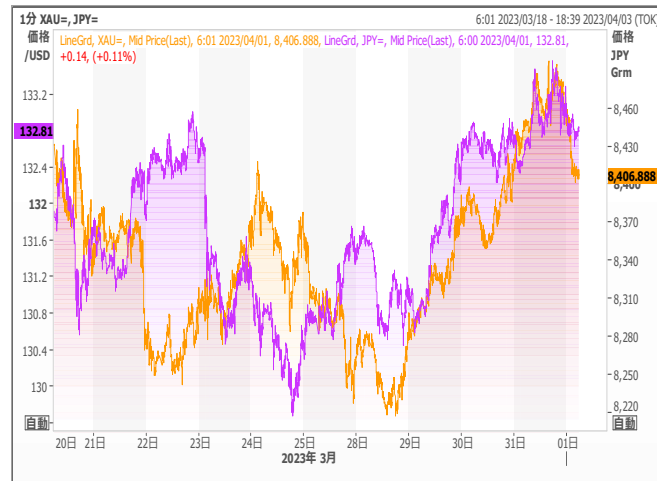
（円建てゴールドの歴史）



Gold ETF残高とゴールド価格



米長期金利とゴールド



円建てゴールドとドル円

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読み下さい。

【ディスクレマー（免責条項）】

本レポートは、本取引所が一般社団法人日本貴金属マーケット協会から提供を受けて、公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は、一般社団法人日本貴金属マーケット協会に帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。

株式会社東京金融取引所

本レポートは、一般社団法人日本貴金属マーケット協会（以下、弊社）が、投資判断の参考となる情報提供を目的に作成したものです。金融商品売買の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行って下さい。本レポートは、弊社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したのですが、情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載された見解や予測は、本レポート発行時における弊社の判断であり、全部または一部が予告なしに変更されることがあります。本レポートを使用することに生ずるいかなる種類の損失についても、弊社は責任を負いません。本レポートの著作権は、原則として弊社に帰属いたします。本レポートにおいて提供される情報に関して、弊社の承諾を得ずに、当該情報の複製、販売、表示、配布、公表、修正、頒布または営利目的での利用を行う権利を有しません。

【会社名】 一般社団法人日本貴金属マーケット協会（Japan Bullion Market Association）

【所在地】 〒103-0016 東京都中央区日本橋富沢町11-15-503

【URL】 <http://jbma.net>

【E-mail】 info@jbma.net

池水雄一（いけみず・ゆういち）プロフィール

1962年生まれ兵庫県出身。1986年上智大学外国語学部英語学科卒業後、住友商事株式会社入社、その後1990年クレディ・スイス銀行、1992年より三井物産株式会社で貴金属チームリーダーを務める。2006年よりスタンダードバンク東京支店副支店長、2009年に同東京支店で支店長に就任。2019年9月より日本貴金属マーケット協会（JBMA）代表理事に就任。一貫して貴金属ディーリングに従事し、世界各国のプリオン（貴金属）ディーラーでブルース（池水氏のディーラー名）の名を知らない人はいない。

最新情報は
ツイッターで

